

# 緊急調査： 糖尿病(慢性疾患)におけるパンデミックの影響と 通院・診療課題に対する意識調査

H2株式会社

# 調査概要

## 調査タイトル

「緊急調査：糖尿病(慢性疾患)におけるパンデミックの影響と通院・診療課題に対する意識調査」

## 目的：

新型コロナウイルスの流行により、シクヘルスユーザー(慢性疾患を有する方)が受けている影響(行動変容)や感染対策など調査時点の認識・意識調査を行うことで、診療に付随する通院・お薬に関連した現状課題を明らかにする。得られたユーザーインサイトを基礎資料に、糖尿病など慢性疾患療養支援体制における“質を担保”した遠隔医療・服薬指導の在り方や潜在患者ニーズを理解することで、アフターコロナ時代に適応した慢性疾患管理におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を最新ICT技術を用いたデジタルヘルスケア(ソリューション)開発によって支援する。

## 調査手法：

「緊急調査」としてシクヘルスチャットボットよりメッセージを送付し、アンケートURLリンクからの回答を依頼

## 対象者(サンプリング該当者)：

シクヘルスアプリをご利用で、医療従事者と属性登録したユーザー以外に対し調査依頼メッセージを送付し、生活習慣病などの持病を有する(健診等での指摘を含む)と回答したユーザーを最終対象にアンケートを実施

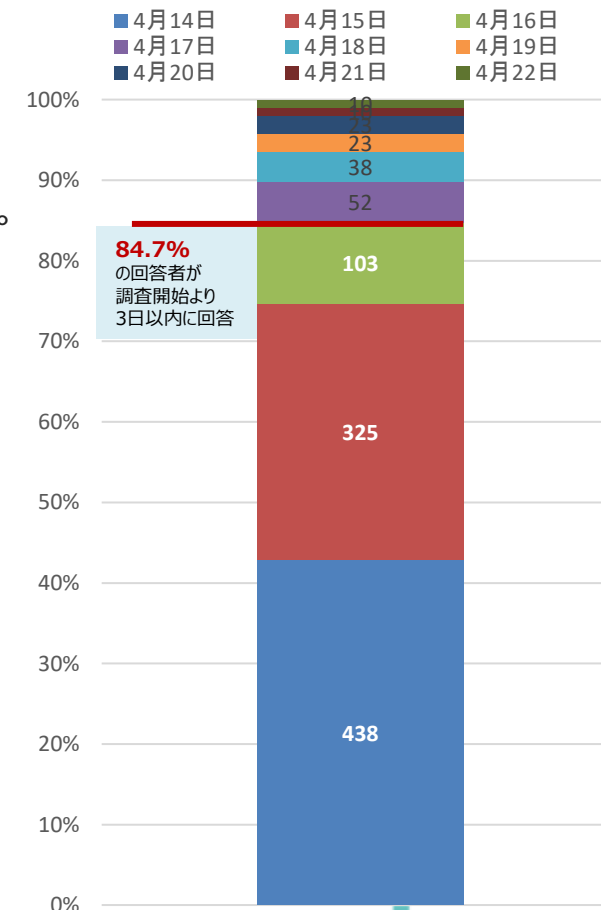
## 回答期間：

2020年4月14日～22日夕方締切(目標回答数の1000名程度を超えた時点で実施者が任意に締切)

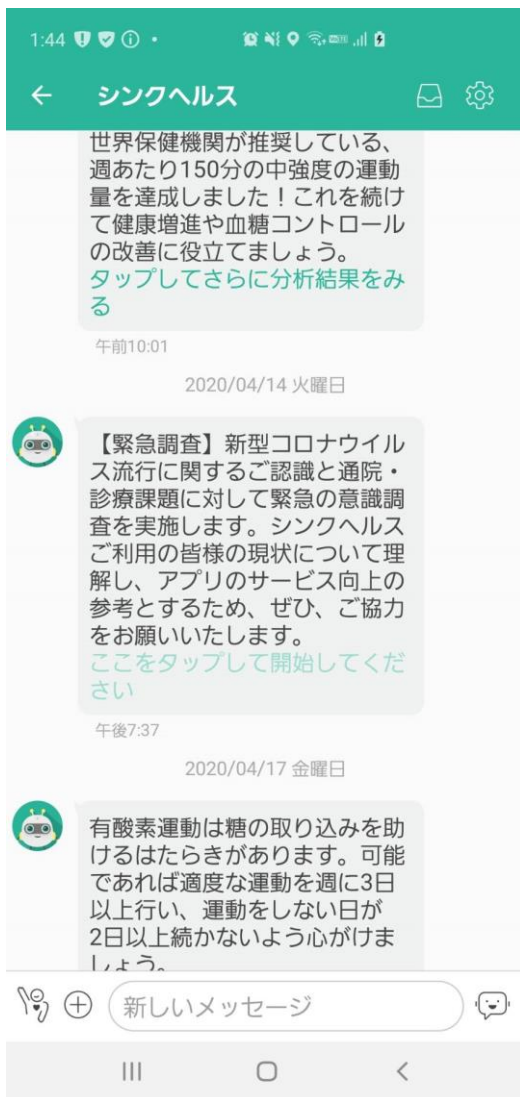
## 有効回答数：

1,022名

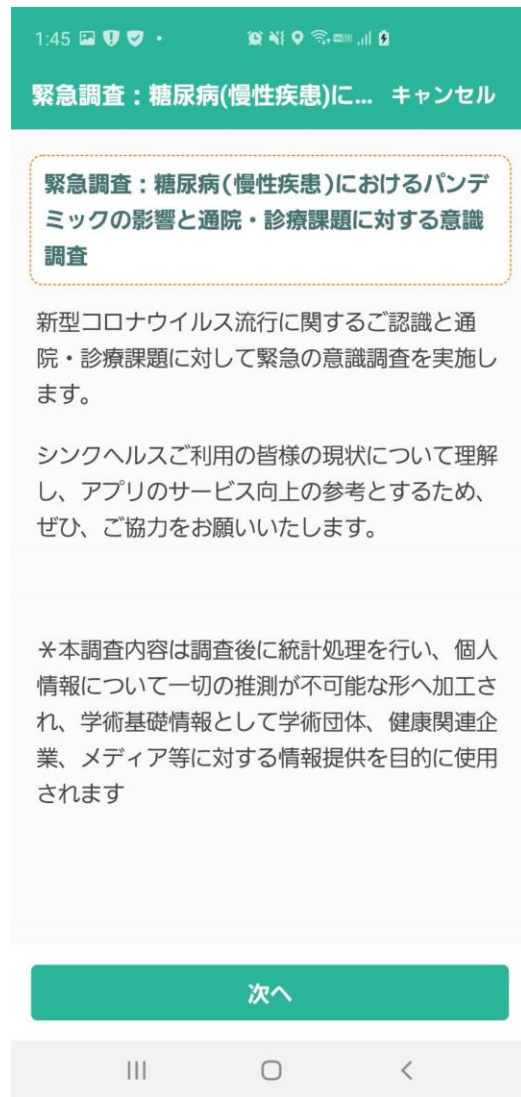
調査回答日の内訳



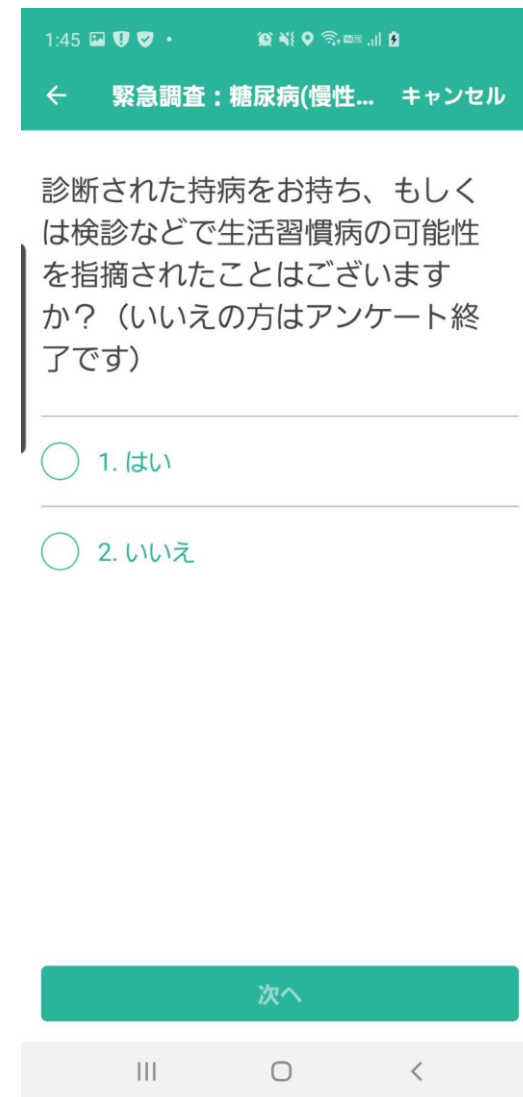
# サンプリング対象者の抽出フロー



シンクヘルスChat Botからのアンケート公募



アンケートの同意取得(ディスクレーマー告知)

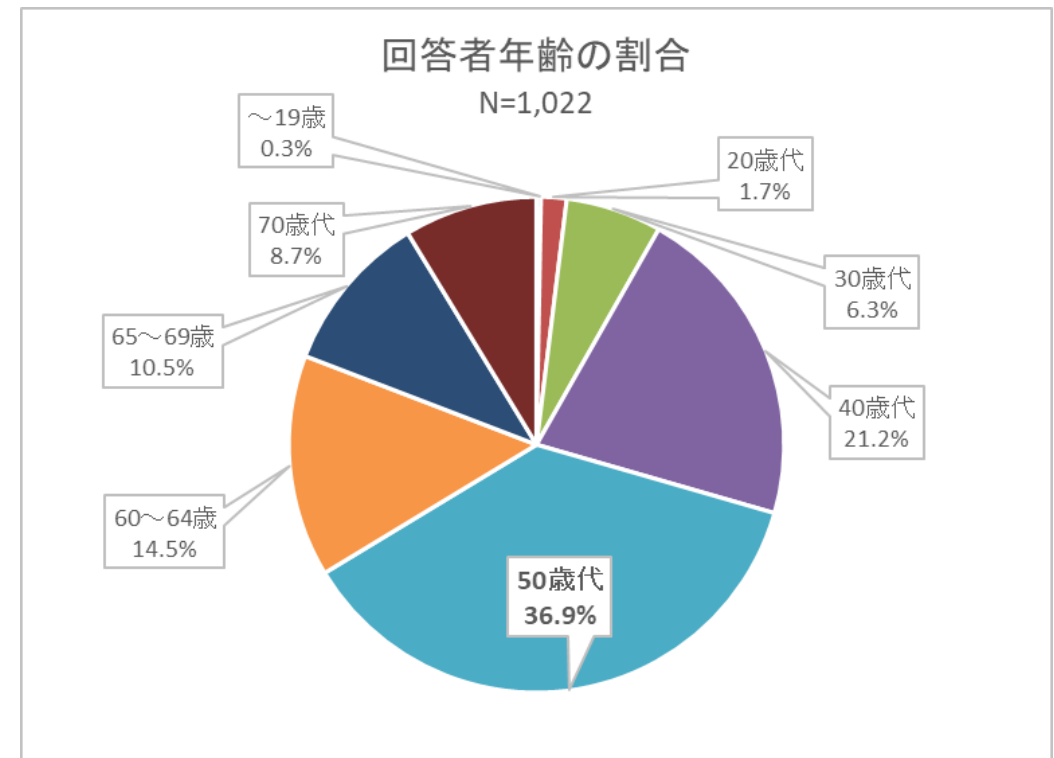
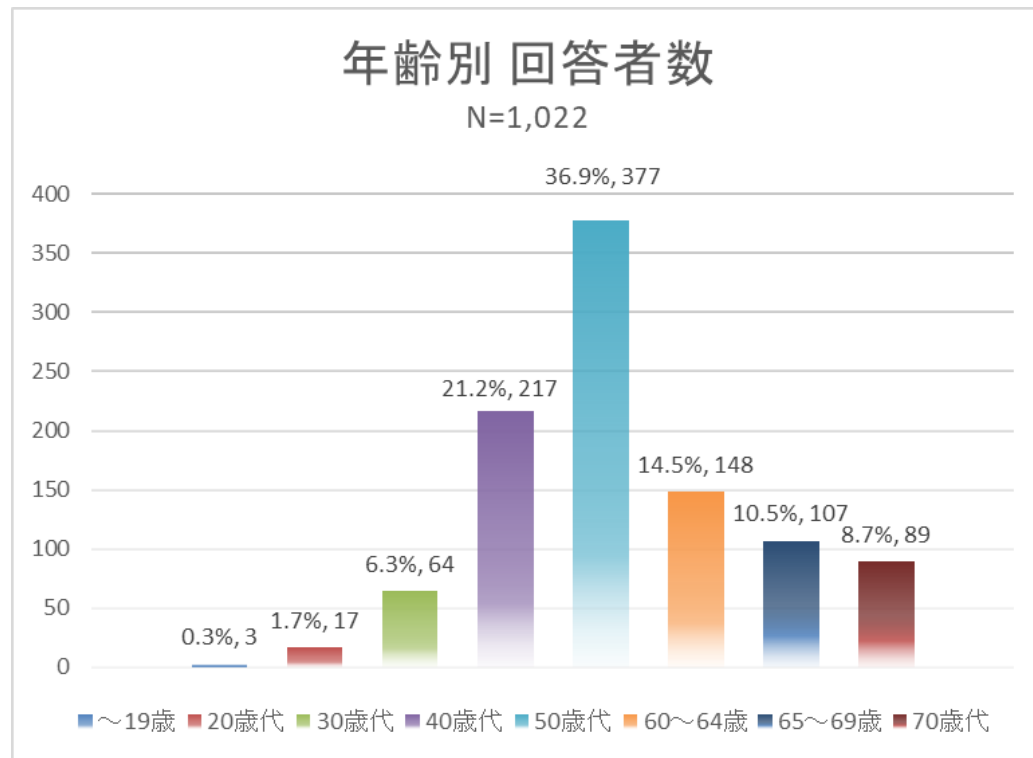


生活習慣病の持病の有無に関するスクリーニング

## Q1.あなたの年齢について教えてください

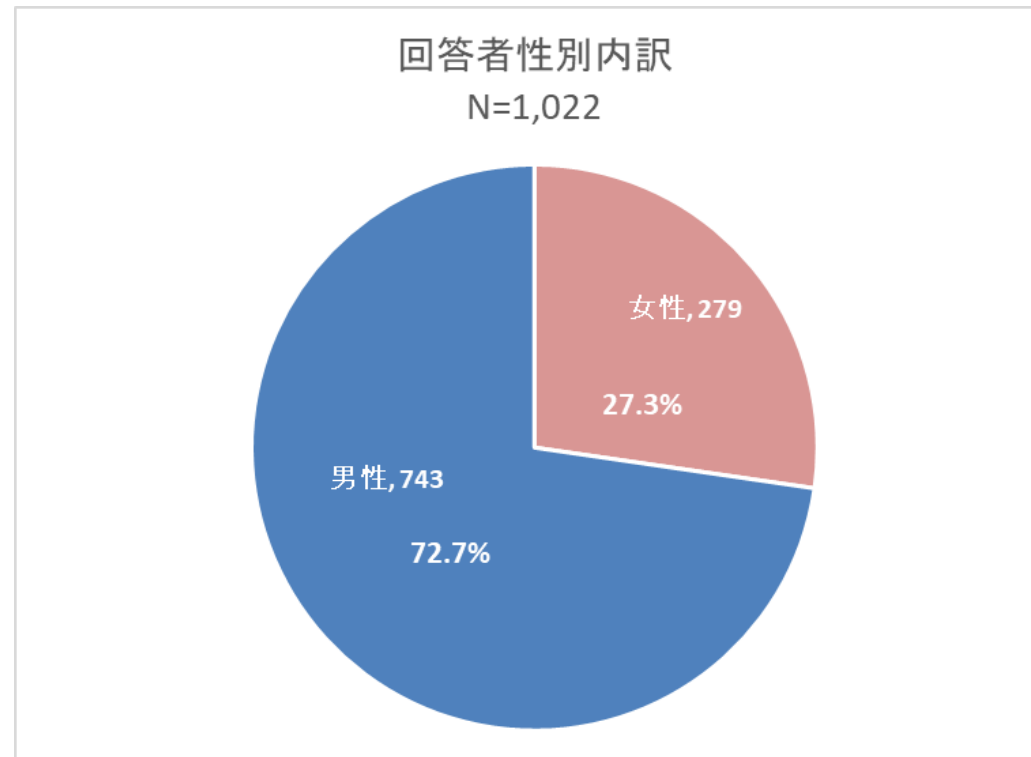
アンケート回答者のうち「50歳代」36.9%が最も多くを占め、「40歳代」21.2%と合わせた計57.1%の過半数について、今回の新型コロナウイルスの流行により日常生活に加えて調査時点で通勤・働き方に大きな影響を受け始めていたと考えられる勤労現役世代となった。

一方、60歳以上の回答者が全体で1/3(33.7%)と、一般的にデジタル活用が難しいといわれる高齢層の回答を得られた。これは高齢者かつ糖尿病などの慢性疾患がウイルス感染により重症化しやすいという報道から、警戒感・懸念が高まっていたことが影響している可能性が考えられる。



## Q2.あなたの性別について教えてください

アンケート回答者のうち、「男性」が72.7%と2/3以上を占めた。男性の回答者が多数となった理由として、Q1と同様に通勤時等における感染リスク増加懸念や政府によるリモートワーク要請など、労働環境を取巻く社会的変化の影響を受けやすかった層が、アンケートの公募趣旨である課題感に対し、より深く共感し回答に応じた可能性が考えられる。

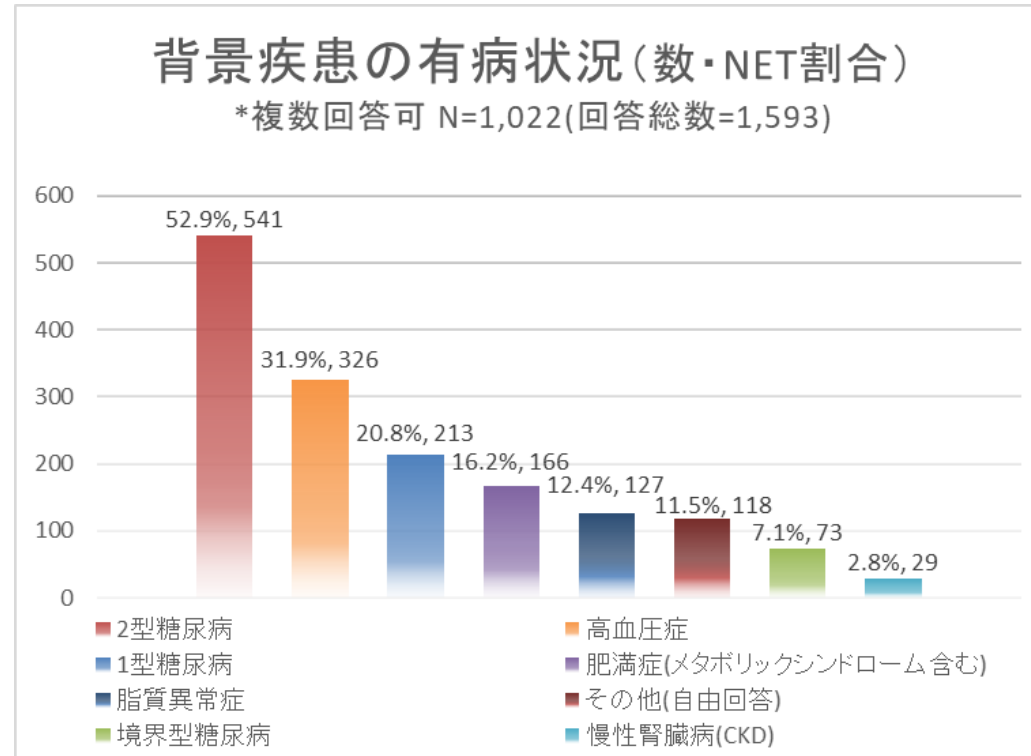


### Q3.現在診断されている持病(慢性疾患)を全てお選びください

\*合併症など複数回答可

アンケート回答者の背景疾患として多かった順は「2型糖尿病」52.9%、「高血圧症」31.9%、「1型糖尿病」20.8%となった。「境界型糖尿病」7.9%を加えると「糖尿病」群が全体の80.8%となっており、血糖コントロールをはじめ、血圧、体重、体組成、食事といった日常の厳格な自己管理支援を必要とするユーザーが主要な回答者の母集団である。

一方で、肥満症(メタボリックシンドローム)が16.2%と比較的少数派だった点について、高齢層が多いことや、いわゆる生活習慣病とは異なる「1型糖尿病」の割合が疾患の人口比に比して多く組み込まれていることの影響が考えられた。

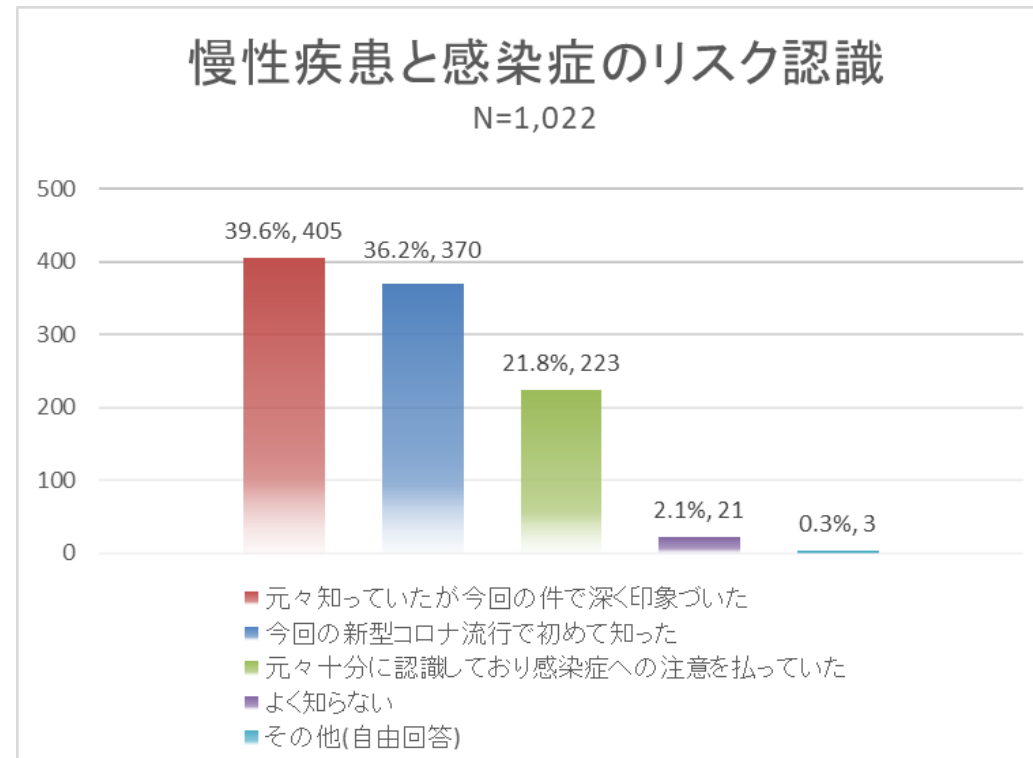


## Q4.糖尿病や高血圧症など慢性疾患が持病の場合、 一般的に感染症が重症化しやすいといわれることについて現在の認識を教えてください

最も多い回答は「元々知っていたが今回の件で深く印象づいた」の39.6%であるが、「元々十分に認識しており感染症への注意を払っていた」21.8%と合わせ、過半数が慢性疾患と感染症リスクについて以前から何らかの知見を有していた。

「シンクヘルス」を日頃から活用しているユーザーであることから、自己管理の意識が総じて高い傾向が伺われる。

一方でおよそ1/3にあたる回答者が「今回の新型コロナ流行で初めて知った」と選択しており、今後の行動変容が促され疾患管理への意識に影響を受ける可能性が考えられる。

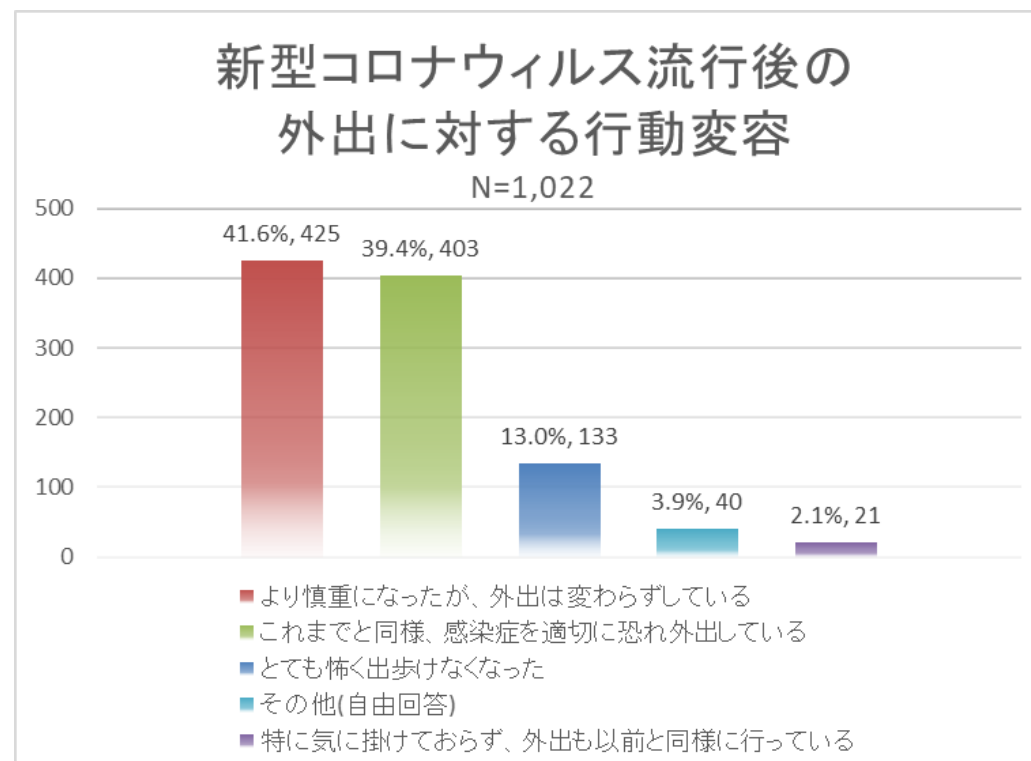


## Q5. 今回の新型コロナウイルスの流行で日常生活や気持ちの状況に最も近いものをお選びください

\*該当するものがなければ、その他(自由回答)をお選びください

全国への緊急事態宣言が発令された4/16を含めた以前の回答数が8割を超えていた背景から、回答者集団の外出に対する行動変容について、「より慎重になったが、外出は変わらずしている」41.6%が多くを占めた。重症化リスクを認識した上で「これまでと同様、感染症を適切に恐れ外出している」39.4%を合わせた計82%が調査時点では不要不急の外出を控えていなかった。

しかしながら、この時点でも13%(7.5名に1名)が「とても怖く出歩けなくなった」と回答し、社会生活における影響(負の行動変容)が広まりつつあったことが示されている。

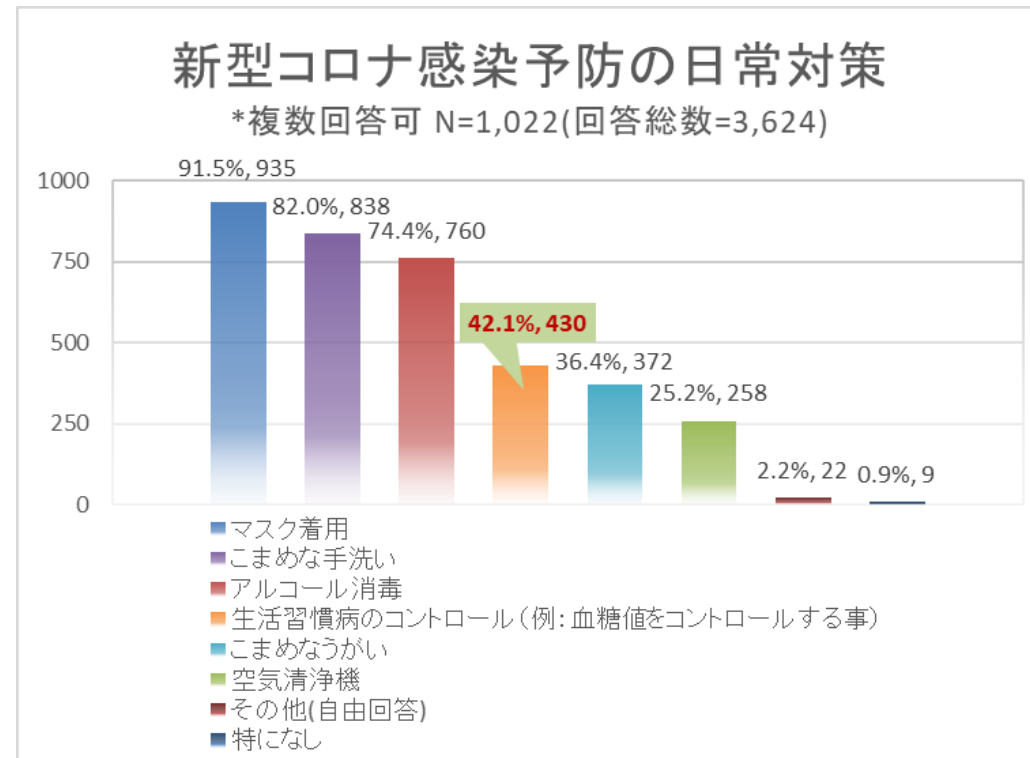




## Q6.もし日常生活で新型コロナウイルス対策として具体的に行っているものがあれば教えてください

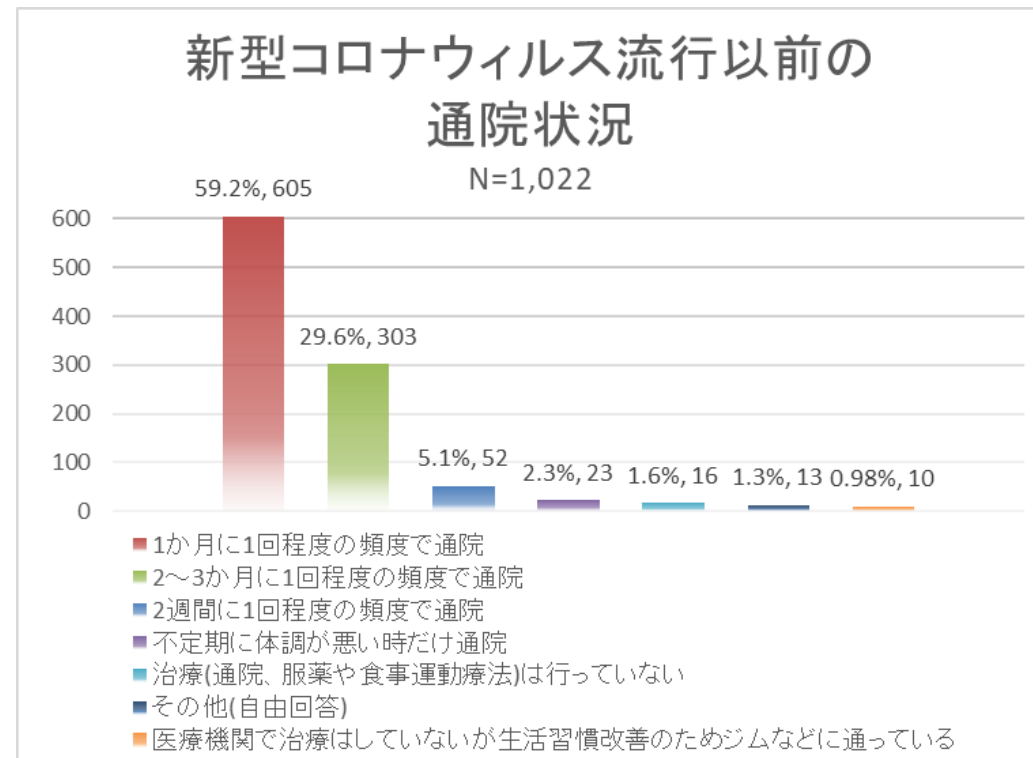
\*複数回答可

新型コロナウイルスへの具体的な感染対策として「マスク着用」91.5%、「こまめな手洗い」82%、「アルコール消毒」74.4%が主な手段として挙げられているが、特筆すべき点は「生活習慣病のコントロール」42.1%である。前項までの質問の通り、療養自己管理に対する意識の高さが示唆されるが、アンケート実施期間の前後、インターネットニュース等で慢性疾患において原疾患コントロールが感染に伴う重症化リスク予防となる話題が取り沙汰されていた影響も考えられる。



## Q7.新型コロナウイルス流行以前の、定期的な通院や生活状況で最も近いものをお選びください

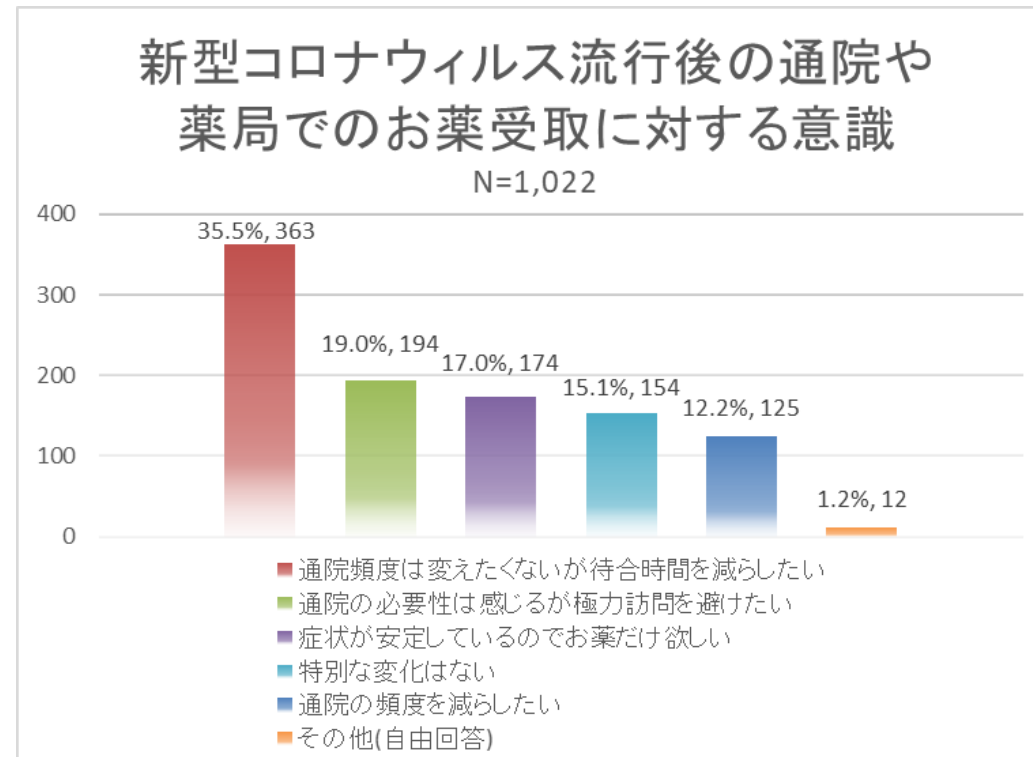
新型コロナウイルスの流行以前の通院頻度として最も多い頻度が「1か月に1回程度」、続いて「2～3か月に1回程度」が多く、全体の約9割を占めていた。元々治療を受けていない方の割合は数%程度とごくわずかであり、回答者の大半が通院・服薬指導に関する課題を抱えていたと考えられる。



## Q8.新型コロナウイルス流行後の通院や薬局でのお薬受取に関する意識で最も近いものを教えてください

新型コロナウイルスの流行後の通院やお薬の受取に関し「通院頻度は変えたくないが待ち時間を減らしたい」35.5%、「通院の必要性は感じるが極力訪問を避けたい」19%、と続き、通院の必要性は感じているものの対策を取らざる得ない状況が伺える。

少数ではあるが「症状が安定しているのでお薬だけ欲しい」17%、と一定数は緊急事態における通院に対し、否定的な意識を示した。

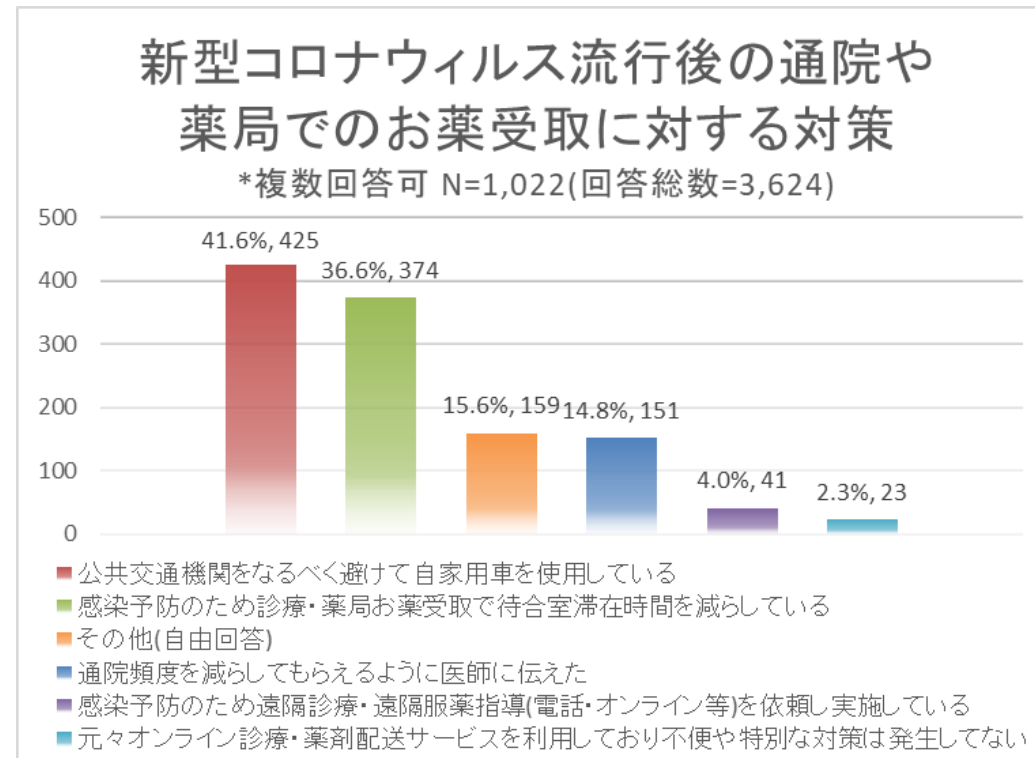


## Q9.新型コロナウイルス流行後の通院や薬局でのお薬受取に関する対策について教えてください

\*複数回答可

通院・薬局でのお薬受取において最も多い対策は「公共交通機関をなるべく避けて自家用車を使用している」41.6%、となった。居住エリアによって自家用車保有の有無は大きく異なるが、公共交通機関を避けるという行為は共通の意見と思われる。その他、「感染予防のため診療・薬局お薬受取で待合室滞在時間を減らしている」36.6%、といった工夫による感染機会の低減、「通院頻度を減らしてもらえるように医師に伝えた」14.8%、のような直接的な通院の忌避が見られた。

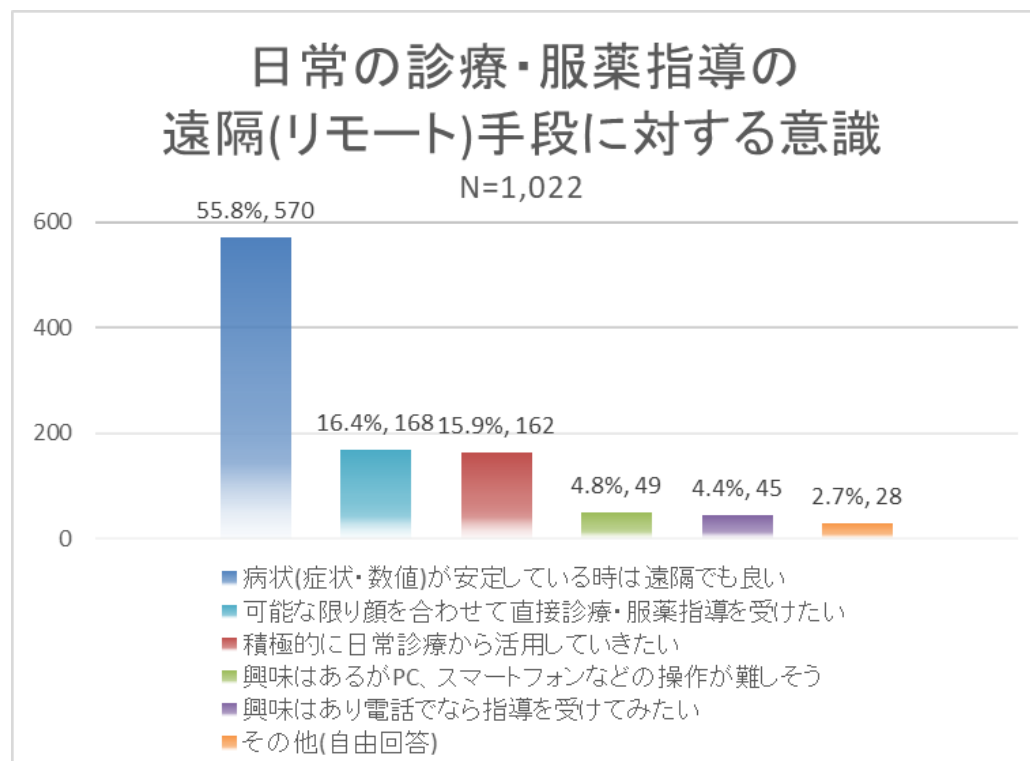
この調査時点において「新たに遠隔診療・服薬指導を開始した」、もしくは「元々行っていた」はマイノリティであったが、0410通知直後のため遠隔手段の一般認知が依然として低く、翌週以降の認識では大きな状況変化が予想される。



## Q10. 日常の診療・服薬指導に関して、遠隔(リモート)の手段にあなたが感じている最も近いもの教えてください

日常的に診療や服薬指導を遠隔手段で行うことに対する受容性は高く、「病状(症状・数値)が安定している時は遠隔でも良い」55.8%、が最も多く過半数を占めた。回答率の差は開くが「積極的に日常診療から活用していきたい」15.9%、を含め計71.7%が肯定的に捉えている。

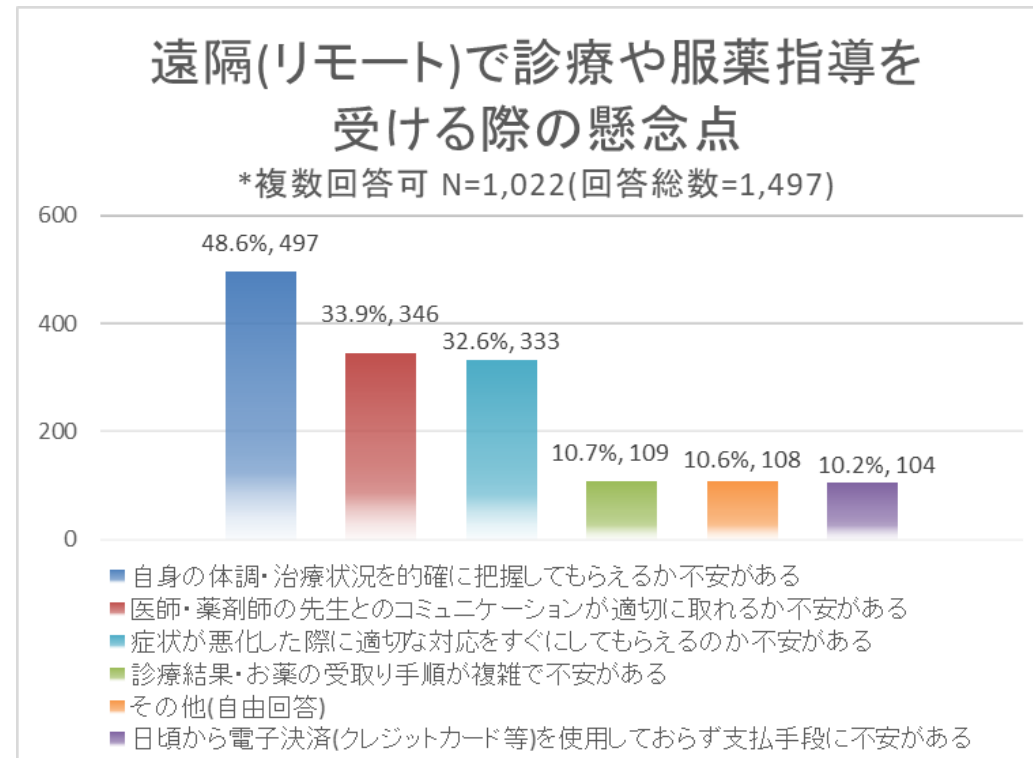
しかし「可能な限り顔を合わせたい」16.4%、といった根強い声や、「興味はあるがPC、スマートフォンは難しそう」4.8%、「興味はあり電話でなら指導を受けてみたい」4.4%、などデジタルに関し少なからず苦手意識を持つ層が存在する。



## Q11.もし仮に、遠隔(リモート)での診療や服薬指導を受ける場合に、不安に思うことがあれば教えてください \*複数回答可

遠隔で診療・服薬指導を受ける場合の懸念として、「自身の体調・知用状況を的確に把握してもらえるか不安がある」48.6%、「医師・薬剤師の先生とのコミュニケーションが適切に取れるか不安がある」33.9%、など、ミスコミュニケーションによる不利益に関して多く懸念が見られた。「症状が悪化した際の適切な対応をすぐにしてもらえるのか不安がある」32.6%、が示すように通院による物質的な繋がりが薄れ、急変時の処置や病院紹介の対応への不安も大きい。

その他、「診療結果・お薬の受取手順が複雑」10.7%、「日頃から電子決済を使用していない」10.6%、など実際に遠隔診療・服薬指導を受けた場合に発生する煩雑なフローへの不安感がアフターコロナ時代の本格導入を妨げる可能性がある。



## Q12. シンクヘルスアプリは「パートナー」機能で周囲の方々と繋がることができます。 医療機関や薬局と繋がることができる場合、どのようなことを期待しますか？ \*複数回答可

医療機関・薬局とデジタルで繋がりを得られた場合の期待として「健康データ(測定値、お薬など)を共有し有益なアドバイスが欲しい」47.1%、が最も多く、自己の管理データに基づいた個別化指導の強いニーズが示された。同様に「気軽に治療・お薬の相談をしたい」31%、「現在の服薬状況からお薬の飲み合わせ等、アドバイスをして欲しい」24.7%、など共有したデータを基にした“自分事”の指導に対する期待は根強い。

一方で、「検査データ・診療結果などをデジタルで共有して欲しい」41.4%、と以前からカスタマーサポートで受けることの多かった問合せへの期待が予想以上に高く、「パートナーチャット」から画像送付を行う機能等で代替可能な点を周知する必要性がある。

